

地図帳っておもしろい！

大阪市立榎並小学校 川辺 智久

1 はじめに

4年生になって、子どもたちは初めて地図帳と出会う。そこで、子どもと地図帳との出会いをよりよいものにすることで、「地図帳っておもしろい！」「地図の学習って楽しい！」という思いを抱くことができるようにしたいと考えた。

2 地図帳への関心を高める

右のような形を画用紙で切り抜き、黒板に貼った。「どんな形に見えますか。」「何か三日月みたい。」「長ぐつみたいやな。」子どもは形を見て浮かんだイメージを思い思いに話し出す。すかさず「みんなが持っている地図帳のP1・2を見てごらん。」と指示をした。ここで子どもは、ある都道府県の形であることに気付く。しばらくすると、「あら、大阪府やん！」の声があがった。「あの一つだけ離れているのは？」「島みたいやな。」「わかった！関空や。」新たな発見が子どもたちの意欲をさらに高める。



帝国書院『小学生の地図帳』(初訂版) P.1

「じゃあ、これはどの都道府県の形かな。」続いて、静岡県、鹿児島県、新潟県、長崎県の形を示した。子どもは一生懸命地図帳を眺めながら、どの都道府県の形なのか探している。「あっ！見つけた！」「青森県って両手を挙げたような形をしているね。」「新潟県の、この大きな島は何という名前なんだろう。」「休み時間も地図見ていい？」子どもの地図帳への関心を高めることができた。

3 地図帳の便利さに気付くようにする

地図帳の学習の2時間目。まず、富士山の写真のパネルを提示した。その特徴のある美しい姿を見て、すぐに「それ富士山や！」という声があがった。そこで、「富士山って、いったいどこにあるのだろう。」と問いかけた。「富士山、富士山…」なかなか見つけることができない。

そこで、索引の使い方を指導した。富士山の場所は「32カ6」である。最初の数字がページ数、それに続くカタカナと数字が地図内での縦横の座標を示すことを教えると、子どもは富士山の場所を地図帳ですぐに見つけることができた。

「先生、他の場所も調べたい。」「じゃあ『御前崎市』ってどこにあるのか調べてごらん。」ちょうど国語科で御前崎市で行われているウミガメの保護の活動について学習していた。

「あった！」「『アカウミガメ』ってちゃんと書いてある！」「御前崎市ってカツオ漁がさかんだったな。地図帳にも『かつおぶし』って書いてあるよ。」「国語の教科書にあった御前崎市の航空写真と地図の形が一緒や！」教室中のあちこちから歓声があがった。国語科で学習した内容が地図帳でもふれられていることは、子どもにとって、まさに大発見であった。

「先生、地図帳って便利やな。」「また地図の勉強がしたい。」授業後、子どもからそんな声があがった。



『小学生の地図帳』(初訂版) P.34

4 おわりに

わずか2時間の授業であったが、地図帳の使い方 の指導をしながら、子どもの地図帳への興味・関心をずいぶん高めることができた。今後は、社会科やそれ以外の学習においてもしばしば地図帳を使うようにすることで、地図に慣れ親しむことができるようにしたいと考える。